ありきたりな、異世界召喚

天草　月夜

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この物語は、ありきたりなよくある異世界召喚である。

アマクサ　ツクヨ
主人公、天草　月夜（１５）

彼女なし、勉強、運動共にそこまでできない、微妙な男である。

しかも、この男はどこぞの勇者のような聖人君子ではなく、めんどくさがりやで、怠惰な生活を送っており、読書とゲーム、寝ることが大好きな受験生としての自覚が一切ない、穀潰しである。

そんな、男が異世界に召喚され、テンプレと化したこの世界を魔王の手から救ってくれ！という願いに対してどうするのか…

くどいと思うがもう一度、

この物語は、ありきたりなよくある異世界召喚である。

目次

いつもの日常

月曜日、学生なら誰もが1度は思うことだろう、昨日までの天国を返してくれ…と。
部活や塾で忙しくて、平日の方が楽?そんな奴等は知らん。
主人公天草　月夜は、そう思う者の1人である。
何時も通り、月夜は8：00には学校についている。8：30には教室にいればいいので少し、いやかなり早い。なぜ、怠惰の極みのような、月夜がこんなにも、というほどでもないが、早く学校に来るのには理由があった。
それは、教室の自分の机で寝ることだ。はぁ?そんなことのために早く来てるの?もう、家で寝てから来いよ、と思うことだろう。教室で寝るのと家で寝るのとでは大きな違いがあるのだ!それは……なんだろう?普段勉強している場所で寝るのは何かいいんだよねぇ。ただ、それだけの理由で早く来ているのだ。
8：20この時間になると、だいたいの人が教室に入ってくる。
「おはよう～月夜また寝てるの?」
「……」
「どうせ起きてるんでしょ‼」
「…朝からうるさいな…」
「起きない方が悪いんだよ!」
俺を無理やり起こした、この女…ではなく、女の子のような男、つまり男の娘である。名前は、十六夜　零華、髪は銀髪のショート、伸長は160位、碧目のかわいらしい顔をした男、生まれる性別間違えてるやつである。あっそう言えば自分の容姿をいっていなかった…黒髪黒目、髪は目にかからない程度に生えていて、伸長は170前半、目が死んでる冴えない男である。
「別に俺が寝ていてもいいだろ、時間まだあるし。」
「だ～め!また、そのままぐっすり寝ちゃって、怒られるよ。」
「うぐっ…ハイハイわかった、起きます。」
「ハイは1回!」

「はい…っておまえは俺の母親か‼」
「あはは！そうだね、私お母さんだね～」
「乗るのかよ…」
「そう言えば、数学のプリントやって来た？」
「数学のプリント？…やべぇやってねぇ」
「やっぱり、こんなに早く来れるならやればいいのに」
「忘れてたんだよ、プリントの存在を…」
　そう言えばいっていなかった、この男、天草月夜は物忘れがおじいちゃんたちよりもひどいのである。
「あ～また、数学のババァに怒られる…あのババァの説教は長すぎる…」
「しょうがないな～私が見せてあげようか？」
「本当か！サンキュー恩に着るぜ！」
「次はちゃんとやるんだよ？」
「覚えてたらやる…」
　とまぁごく普通の日常である。銀髪の男の娘の幼なじみなんて存在しない？そんな子いる時点で普通じゃない？そう思う人もいるだろう。だが、この物語はこれが普通だ！納得しろ！…すいません、調子にのりました。
　そんな日常が突然壊された…異世界からの召喚によって…